

# コロナ禍における七山会営薬局の対応

令和4年11月12日

一般社団法人唐津東松浦薬剤師会薬局七山店

高木 一範

2020年6月、コロナ禍で開局する事になった七山会営薬局。2021年、2022年もコロナウィルスとの戦いの日々であった。検温、薬局内の朝のアルコール消毒、日中の換気はルーチン業務となり、発熱者は診療所、薬局には入れない事が患者さんも当たり前と認識し、薬剤師も薬局の外で投薬することが日常となった。耳が遠い高齢者はマスク越しに話す言葉が聞き取り辛いようで、筆談パッドは難聴の方へのコミュニケーションツールとしては大変有用であった。

今回は2022年に七山会営薬局で新型コロナウイルス感染症対策事業として取り組んだ内容に絞って発表させていただきます。

薬局薬剤師の新型コロナウイルス感染症対策事業として、以下の事業に関わらせて頂いた。

- ①医師会と連携したワクチン充填の予防事業
- ②ワクチンに不安を抱える市民の為に県薬のコールセンター事業参加
- ③罹患した患者への薬の提供（外来および臨時のクラスター施設対応）
- ④がん末期の在宅医療（最後は自宅での思いを受けて）
- ⑤感染に不安を抱える市民の不安を払拭させる抗原・PCR検査事業
- ⑥抗原検査キット販売
- ⑦学校薬剤師として小中学校への情報提供（消毒、換気など）

特に抗原・PCR検査事業を通じて、多くの市民の方から感謝の言葉を頂き、大変ではありましたが県民のニーズに応え、気持ちに寄り添えたことは有意義であった。また、開局からがん末期の患者対応を5件行い、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の一躍を担い、PCAポンプ（CADD Legacy）の有用性を学ぶことができた。唐津地区では会営薬局の和多田の本部にクリーンベンチも完備しているので、今後地区での研修会を重ねることでPCAポンプの調製技術を会員が身に付け、ACPに薬剤師という職能が不可欠な存在になればと考えている。